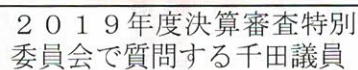


2019年度決算審査
特別委員会

一般質問
女川原発再稼働



これに対し、達増知事は、「東京電力原子力発電所の事故のようなことを二度と起こしてはならない」ということを改めて強く申し上げたい」と述べました。

千田議員は、「東北電力女川原発2号機の再稼働をめぐり、宮城県の村井知事が同意を表明したが、宮城県の地元紙は原発再稼働不支持は7割以上と伝えている。今後30年以内にマグニチュード7クラス的地震が起きる確率は90%程度との想定もあり、危険性を深刻に受け止めるべきではないか」と質問。

福島第一原発事故の教訓に学び、岩手県知事として

慎重な対応を求めるべき……

福島第一原発
トリチウム汚染水に基準超え放射能問題

汚染水が入れられたタンク群

千田議員は「国の小委員会が汚染水を海洋や大気へ放出することを発表したのが漁業者等から海洋放出に反対の声が上がっており、原発事故の被害を受け、

今不漁で苦しむ岩手の水産業を守るためにも海洋放出に反対すべきではないか」と質問。

これに対し、達増知事は、「処理水を海洋放出する案については漁業関係団体が風評被害への懸念から反対意見を表明しているほか、海外から早期に処分方法を決定することへの懸念が示されていることから、も理解が得られないような形で進めてはならないと考えている」と述べました。

更新に50年以上も掛かる計画は容認できない

灯器のうち車両用が2%、歩行者用が0.7%を占めている。昨年3月に岩手県交通安全管理計画を策定し、一年間に信号制御機は70基、コンクリート製信号機は20本、電球式車両用灯器は60灯、電球式の歩行者用灯器は64灯の更新を計画している。」と答えました。

耐用年数を超え、老朽化のため計画を前倒しして今年度更新された姉体小学校付近の信号機

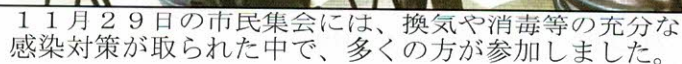
千田議員は、「コンクリート製柱信号機で耐用年数を超えたものが3割以上もあるということは大问题であり、うち50年を超えたものが5基もある。事故が起きてからでは遅い。今後50年かかるような信号柱の更新計画は到底認め難い。もつと前倒しして更新すべきだ」と強く指摘しました。



安心して住みつづけられる地域医療をめざして

の市民が足を運びました。三重短期大学教授の長友薫輝（まさてる）氏が、基調講演を行い、「公立病院のベツド削減、医師不足は国の医療費抑制政策の一環であり、地域経済にも大きな影響を与えるもの。よつて行政任せではなく住民の働きかけが重要だ」と説きました。

この日の集会では、「安心して住みつけられる地域医療をめざす会」も結成され、署名と募金活動を行うなど、運動の継続方針が確認されました。



署名にご協力ください！

11月29日、「医療を

考えるパママの会」

主催の「安心して住み

つづけられる地域医療

をめぐす」市民集会が

開かれ、
110名以上

の市民が足を運びまし

た。三重短期大

学教授の長友薫輝

(まさてる) 氏が

基調講演を行い、

「公立病院のベツ

ド削減、
医師不足

は国の医療費抑制

政策の一環であり、

地域経済にも大きな

な影響を与えるも

の。よって行政任

せではなく住民の

働きかけが重要だ」

と説きました。

